

1. 地域資源マップはどのようなものを作っていけばよいでしょうか。	
誰が使うのか？	<p>(1班) 認知症の人の家族が使う、民生委員等相談窓口となる人が使う、包括が使うなど考えられるが、一般住民を対象にしたものを作るのが望ましいのではないか。</p> <p>(2班) 認知症になったときに相談するところが知りたいのではないか。周知を図る意味でも市民全体を対象としてはどうか。</p> <p>(3班) 誰が見てもわかるものがよい。全世帯に配布できるものを。</p> <p>(4班) 高齢者本人や家族対象か。しかし、介護真っ只中の家族には、それを見る余裕もないし、求めるものは一人ひとり違う。サポーターやメイトに配るもので、全戸配布するようなものは意味がない。</p> <p>(5班) 住民向けを作る。市内全部は広すぎるので、もう少し小地域にしてはどうか。高齢者が理解しやすいものを作る。</p>
載せる情報は？	<p>(1班) 地域包括支援センター、コンビニ、ガス・水道・電気などライフライン、薬局、お寺、自治会長、民生委員、子どもSOSの家のような高齢者を受け入れてくれるところ、高齢者に理解のある人（どんな人？） 地域的に不足しているものがわかれば、新しく設置へ働きかけることもできるので、マップ作りは有効。</p> <p>(2班) 相談窓口となりうる場所（地域包括、在介、民生委員、病院、市役所、グループホーム、施設など） 市全体の地図には、専門医を載せると良いのでは。</p> <p>(3班) 相談窓口（地域包括、民生委員、キャラバン・メイト等）、医療機関（認知症に理解のある医療機関）</p> <p>(4班) 人によって、ほしい情報は違うのではないか。魚屋、服屋、美容院など地域の商店街の人たちに見守ってもらえると良い。 福祉施設、医療機関、認知症専門医、包括等の相談機関、キャラバン・メイト、サポーター、 認知症の人が困ったら飛び込んでいけるような家</p> <p>(5班) 公共施設（公民館、郵便局など）→いろいろなところに呼びかけてサポーターを増やしていく。 警察、お寺、病院、包括センター、民生委員、自治会長、老人クラブ会長、タクシー運転手、 スーパー・商店（情報が集めやすい） マップを作成する過程で、お願いすると認知症に対して 広く理解が得られるのではないか。</p>
マップとしての体裁は？	<p>(1班) 文字ばかりではなく色分けして見やすくする。地域別で作ったとしても基準を統一したものを作ると良いのでは。</p> <p>(2班) 松阪市全体の地図と小地域の地図の2種類にしてはどうか。小地域を包括エリアにするのか、中学校区単位か、 もっと小さなエリアにするのかによっても変わるので、要検討。 飯南・飯高と旧市内の市街地では載せる 情報量も変わってくるはず。</p> <p>(3班) 松阪市全体で詳しいものを作るのは難しいので、地域ごとに作る。市全体は、情報別に作ったらどうか。</p> <p>(4班) 電話番号を入れたリストを小学校区別に作る。 マップのサイズは、ポケットサイズ。イラスト多くし、文字は見やすく。</p> <p>(5班) 目的によって地図を作る。（見守りをしてくれるところ、病院、相談窓口などによって分類する。） ゴミ分別用の用紙サイズで、厚さもそのくらいならよいのではないか。市役所の公共施設の電話の用紙ぐらい。 色別をしてわかりやすくする。用紙の地の色は白で。文字は大きくする。（読みやすいサイズ）</p>

配布方法は？	次回検討
周知啓発のアイデアなどは？	次回検討
<p>2. 小地域で関わってもらいたい人材は？</p> <p>(1班) 役所の人に知ってもらい地域に発信する。市職員全員メイトになってもらう。</p> <p>(2班)</p> <p>(3班) 自治会会長、民生委員、老人会会長（みんなメイトになってもらうとよい。）</p> <p>(4班) 自治会、老人会、民生委員、こどもの意見も聞く</p> <p>(5班) 郵便局、スーパー、自治会長、公民館、民生委員、商店（自転車屋、酒屋、クリーニング店、米屋、床屋等） 山間部では公共施設や資源が少ない分、地域住民の連携で支援へ。</p>	
<p>3. その他</p> <p>キャッチフレーズ（お題は？）</p> <p>(1班) 「知って安心 お助けマップ」「みんなでつなごう安心の輪」「見て発見 聞いて納得 話して安心」</p> <p>(2班) 「みんなで支え合う街 松阪」「認知症になっても安心して暮らせる街」「あなたが支える地域」</p> <p>(3班) 「安心やんか ええやんか 松阪市」「地域で支える認知症」「地域の力で守る認知症」</p> <p>(4班) 「笑顔で暮らせる松阪」「明るい声の聞こえる松阪」</p> <p>(5班) 「いきいき生活 みんなが仲間」</p> <p>その他の意見</p> <p>(1班) 必要性はどれだけあるのか？包括のPRも必要。認知症を知る勉強会を持つ。</p> <p>(4班) 『高齢者』と書いてあると抵抗感あり。手に取るのがイヤになってしまう。工夫を。 そもそもマップ作成の意義は何か？ マップを作る前に、やることあるのでは？サポーターを増やす必要がある。 寸劇で啓発</p> <p>*認知症に人への接し方の具体的な例が載っていると、「認知症の人＝こわい」から脱却できるのではないか。</p>	